

OBON 2015

個人の遺留品をご遺族の元へ



誰でも一人一人に家族がいます

戦後 70 周年を迎え、OBON2015 は活動の領域をより広げ、多くの方に認知していただけるようになりました。

次のステップとして、日米以外の方々にも、お手伝いができるような活動を検討しています。今月号では、私達のこれからの予定をお知らせいたします。

目次

ページ 2: 2020 年オリンピックへ向けて

ページ 3: 日章旗の返還

ページ 4: 台湾

ページ 5: 誠意

ページ 6: 調査の一例

ページ 7: 寄付のお願い・連絡先

OBON2015 から OBON2020 へ向けて

2009年、OBON2015の活動を始めた時は、2015年までと期間を決めて活動を行う予定でした。2015年というのは、ちょうど終戦70周年という区切りだったのです。これが、「OBON2015」という名前の由来です。ところが、過去数年の間に2つの重要な出来事がありました。

一つ目は、この活動を真に国際的に行う必要性です。インド、ロシア、フィリピンに加え、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドなどの退役軍人から、寄せ書き日の丸に関して連絡を頂きました。我々の目的のためには、日米二カ国以外でも活動をする必要性を痛感しました。

二つ目は、歴史の主要な区切りとして、日本人は70周年を考えますが、欧米人は75周年を重要な区切りとして認識します。欧米人は、四分の1を使った単位を好みます。25、50、75... これらの数字は、別名、シルバー、ゴールド、ダイヤモンドとも呼ばれます。

これらの理由により、我々は、次の目標を2020年に設定しました。



さらに、2020年は日本人にとって非常に重要な年です。これは戦後75周年というだけでなく、オリンピックが再び日本で開催される年でもあります。



1964年の東京オリンピックは10月に開催されましたが、2020年のオリンピックは、それよりも二ヶ月早く、7月24日に開会し、8月9日に閉会する予定です。偶然にも、2020年オリンピックの閉会式は、お盆の最中なのです。

このような重要な節目としての2010年を迎えるため、OBON2015は活動の輪をさらに広げていきます。今後とも、皆様方の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

ご協力有難うございました。

OBON2015 は、1～2月の間に、5枚の日章旗を返還することができました。湖面に投げられた小石が作り出す波紋のように、故国日本の様々な地域に、これらの日章旗は帰って行きました。



永車廉三命。東京にお住まいの娘さんに返還することが出来ました。



金谷芳雄命。日本の親類に返還することが出来ました。



田坂義章命。広島在住の、現在93歳になるお兄様と親戚に返還することが出来ました。



岡田道太郎命。埼玉県の義理の兄弟に返還することが出来ました。

台湾

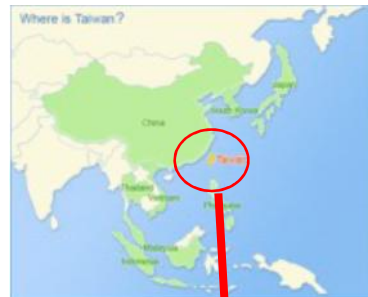
当協会は、日本語でない文字が書かれた寄せ書き日の丸を受け取りました。それはすぐに台湾語と判明しました。

台湾は、1895年以來、日本の統治下にありました。何世代にも渡る日本の近代化政策の中で、多くの風習や習慣が日本から台湾に伝わりました。この中に、「寄せ書き日の丸」も含まれます。先の大戦では、20万名以上の台湾の若い男性が日本軍の一員として戦いましたが、出征前に、家族や友人が日章旗に寄せ書きを行い、兵士の無事を祈りました。（下記写真参照）

数ヶ月に及ぶ日台協力者の合同調査により、兵士の孫が見つかりました。遺留品の返還を希望されているのを確認後、この台湾の友人へ遺留品を返還することが出来ました。



寄せ書き日の丸を持った台湾の兵士達



この寄せ書き日の丸は、銅鑼郷(とんるお)市の遺族(孫)に送られます。

訳者注：この日章旗返還の様子は、OBON ソサエティ日本語版サイトにも詳しく報告されています。台湾の方々との心温まる交流、あわせてご覧下さい。 <http://obon2015.com/id/2014-1213-return.jpg>

誠意

過去5年間に渡る活動を通じて、いかに多くの米国人が日章旗返還を希望しているか、驚きをもって知りました。

彼らが保有している遺留品は、現代とは全く価値観の異なる時代にアメリカに持って来られました。

多くの人々が、OBON2015のスタッフに仰られます「もし、立場が逆だったら、…」自分の夫・父・兄が、外国で殺され、遺留品が持ち去れたら…遺族は、遺留品だけでも帰ってほしいと願うでしょう。

過去の敵味方に関係なく同じ人間としての尊厳を守り、人道的な行いをしたいと望む賛同者から、OBON2015には多くの遺留品が寄せられています。



「母と私は、この日章旗をどうすべきか何年も考えめぐねていました。貴重な物なので、隠したり鍵のかかった場所に隔離しておく事は、良くないと我々は知っていました。そんな時、このような旗を返還するための団体のことを人づてに聞きました。私は、まるで啓示を受けたように、すぐさま連絡しました。祖国や愛する人を守るため戦地へ赴いた戦士のご遺族に、この旗の返還が、心の安らぎをもたらすことをお祈りしています。OBON2015スタッフ皆様のすばらしい働きに感謝すると共に、この返還プロセスの一員となれたことを誇りに思います。」

ロビー・M氏（ルイジアナ州プリレイビル市）より

調査の一例

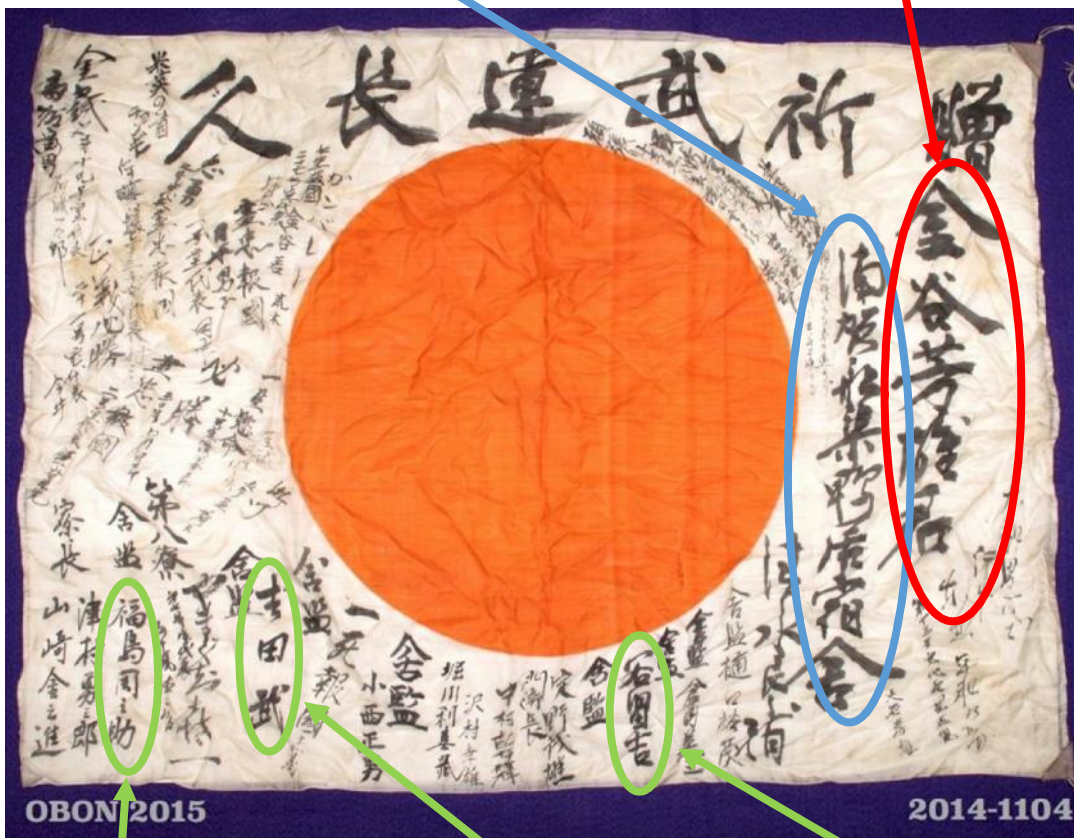
この美しい寄せ書き日丸には、兵士の名前に加え、会社の名前が記されています。持ち主の調査を行う上で、このような情報はとても役立ちます。今回紹介する例では、よく知られている会社名が書かれていました。これらの会社は、wikipedia あるいは自社サイトで詳細を知ることが出来ます。

浦賀船渠: http://en.wikipedia.org/wiki/Uraga_Dock_Company

住友重工: <http://www.shi.co.jp/english/index.html>

この地方での造船は、何世紀も前から行われています。浦賀船渠は、1869年に設立され、2003年に住友重工に合併されました。会社の記録により、この兵士の身元を確認することができました。

この兵士の名前は「金谷芳雄」氏です。



福島周之助氏。1959年1月31日、住友重工を定年退職

吉田武氏。1959年9月30日、住友重工を定年退職

谷留吉氏。1954年4月30日、住友重工を定年退職

OBON2015の調査員は、ここにある全員の名前を追跡調査し、数人の詳細を知ることができました。

寄付のお願い・連絡先

当団体は、皆様からの寄付により活動しています。

宛先

アメリカ在住の方 (501(C)3 を通じた税金控除の対象となります)

AVA/OBON 2015

P.O. Box 282

Astoria, Oregon 97103

日本在住の方

<ゆうちょ銀行からの振込>

記号：1 4 4 5 0 番号：1 6 5 7 7 7 8 1

名前：OBON ニセンジュウゴ

<他金融機関からの振込>

振込先銀行名：ゆうちょ銀行

店名：四四八 (読み ヨンヨンハチ) 店番：4 4 8

口座番号：1 6 5 7 7 7 8

口座名：OBON ニセンジュウゴ

(「OBON2015」は、2015年の日章旗返還を目指した、OBON ソサエティの前身名です)

皆様から頂いた寄付金により、より多くの遺品を返還することが可能になります。

日章旗をお持ちの方、また、所有されている方をご存知の場合は、当団体までご連絡ください。日章旗・その返還方法に関して、ご質問があれば、ご遠慮なくお尋ね下さい。我々は日章旗の返還に、使命と情熱をもって、取り組んでまいります。

OBON Society

P.O. Box 282

Astoria, Oregon 97103

contact@OBON2015.com

